


獨協大学長殿

学外研修報告書

私は、学外研修員として出張しておりましたが、このたび研修を終えて帰任いたしました。つきましては、次のとおりご報告申し上げます。

報告日	2020年 10月 16日	所属	法学部 法律学科
職名	教授	氏名	吉川 信將 
研修種別	①. 海外 2. 国内	研修種類	①. 長期 2. 短期
研修期間	2019年 9月 1日	～	2020年 9月 1日
学外における主な研修機関および訪問先 ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (ロンドン大学)			
出張目的または研究題目 研究題目：株主の利益保護に関する比較法的考察			
資格 ①. 2019年度獨協大学学外研修員 (派遣) 2. 本学承認の学外研修員 (自費等) 3. その他 ()			
大学から支給された費用 (要清算書類)・補助金額			300万円
研修内容 (1. 研修経過の詳細 2. 研究成果発表の予定 3. その他 を記入)			
1. 研修経過の報告			
現地における研修開始当初は、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (以下、「UCL」と略称する) 法学部で受入先となっていたいただいた Carsten Gerner-Beuerle 教授が、まさに私の研究テーマをも包含する英独仏米を中心とした『Comparative Company Law』と題する比較会社法の大著を刊行されたばかりであったので、これを読み込むことに努めた。			
教育先進国であるイギリスの有力ロースクールの授業手法を体験できるせっかくの機会			

提出先：所属学部長→学長→人事課

裏面につづく

でもあるので、Martin Petrin 教授の「Cross-border Merger and Acquisition」の授業にも出席させていただき、欧米を中心とした国境を越えた合併・買収に関する法制面・実務面での展開を学ぶことができた。国際色豊かな院生達が100名を超すクラスながらも活発に発言・質問する姿に感銘を覚えた。また、全員がPC又はタブレットを机上に置き、授業の進行に合わせて大学サーバーに蓄積されたレジュメ、資料、サブテキスト等を自在に操るというデジタル化の進み具合に圧倒された。さらに、UCLでは定期的に教員によるセミナーが開催されていたので、こちらにも出席させていただいた。隣接法領域に関する知識を広めることにも有益であったが、Marc T. Moore 教授によるセミナーは「Designing Dual Class Sunsets」という近年問題となっている複数の種類株式を発行している会社における株主の利益保護の在り方に関して現実的解決策を提言するものであり、私の研究に示唆するところが大きいものであった。

UCLの法学部は、大英図書館から徒歩圏内にあり、UCLもその構成校の一つであるロンドン大学に属するInstitute of Advanced Legal Studies（高等法学研究所）も同様に徒歩圏内に所在している。UCLの図書館を含め、法律研究者がイギリスの法律文献を調査・閲覧等するには最適の立地であり、これらの施設も利用できたのは幸いであった。

しかし、新型コロナウイルスの流行拡大により事態は急変してしまう。ロック・ダウンが始まると大学へは一步も立ち入ることが許されず、他の図書館や研究機関も同様に利用不可能となってしまった。当初はある程度待てば状況が改善されて日常生活も通常に戻るだろうと考えていたため、研究計画の遂行予定は変更しないでいたのだが、事態は改善するどころか一時は悪化の一步をたどり、外出することもままならない状況に陥ってしまった。このため、在外研修の後半に予定していた共同研究や実地調査等の対外的・対人的活動を伴うものが全くできなくなってしまった。もっとも、図書館等が徐々に対策を打ち出し、オンライン利用の制限を緩和するなどしたため、日本では容易に閲覧できない電子化資料が閲覧できるようになり、資料の収集は若干進めることができた。このように研究の深化には水を差すような状況が続いたものの、企業法制・実務における非常時の対応に関して（非常時における前年度利益に基づく配当の可否等）イギリス等と日本では差異のある箇所に向けるとなるとない機会になった。

2. 研究成果発表の予定

複数の種類の株式を発行する会社における株主の利益保護の在り方については「獨協法学」論文を掲載する予定である。また、株式会社において株主と並ぶ資金の提供者である債権者保護の在り方についても何らかの方法で公表する予定である。

3. その他

資料収集や現地研究者との意見交換等が不十分なものとなってしまったが、今後イギリス等での新型コロナ流行が収まるのを待って、不足分を補っていくこととしたい。

以上